

2014年度自己点検・評価報告書(シート)

【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	司法研究科
大項目	5 カリキュラム
中項目	
小項目	5.0.1 科目設定・バランス
要素	授業科目が法律基本科目、法律実務基礎科目、基礎法学・隣接科目、展開・先端科目の全てにわたって設定され、学生の履修が各科目のいずれかに過度に偏ることのないように配慮されていること。
小項目	5.0.2 科目の体系性・適切性
要素	授業科目が体系的かつ適切に開設されていること。
小項目	5.0.3 法曹倫理の開設
要素	法曹倫理を必修科目として開設していること。
小項目	5.0.4 履修選択指導等
要素	学生が履修科目の選択を適切に行うことができるようにするための取り組みがなされていること。
小項目	5.0.5 科目登録の上限
要素	履修科目として登録することのできる単位数の上限が年間36単位を標準とするものであること、及び修了年度の年次は年間44単位を標準とするものであること。

II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 進級制度により進級ができなかった学生のための特別クラスの設置、特別担任制度の新設、授業料緩和措置制度の整備。	→特別クラス数、特別担任制度の決定と公表、授業料緩和措置制度の導入。	D	C	B	A	A
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
2. 基礎演習 I 開講クラス数の半数を実務家教員が担当する。	→実務家教員の基礎演習 I 担当クラス数			A	A	A
	→					

《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	A	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 本研究科執行部および教務関係委員会を中心に取り組んだ。進級不可者と面談することで、学習方法の問題点を発見し、当該学生が再出発できるようきめ細やかにサポートした。また、再履修者に配慮した授業実施策として一部の必修科目では再履修者用クラスを設けた。さらには標準修業年限超過者を対象とした単位制学費制度の導入により経済的負担を軽減した。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 面談により、学習上の問題点を発見できたケースや、学習上の悩みを相談できたなどの効果があった。また、進級不可となった学生のうち、本取組を経て、2年目以降に成績が向上したケースも見られ、成果があがっている。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 制度的手当は施したから、従来の制度のもとでこれまでどおり成績評価を厳格におこない、その結果進級不可となった学生に対しきめ細やかなサポートを行うことで、司法試験合格に十分な学力の養成に努めたい。	☆
		その他	☆

目標2	A	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 教務関係委員会を中心に取り組んだ。複数クラスを開講する基礎演習Ⅰの授業目的を再確認し、法学未修者が思い悩む、 学習の方法や判例の読み方などについて、実務家教員が、法律家として求められる能力は何かという観点から親身に指導 し、以後のロースクールでの学習の基礎を養うことを目標に取り組んだ。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か	
		目標では、基礎演習Ⅰの開講クラスの半分を実務家教員が担当するとしていたが、近年は全クラスについて実務家教員が 担当している。学習初心者にとって難解な法律学の勉強であるが、徹底して基礎的な素養を身につけさせるとともに、将来 の実務に関連させながら、法律に基づく問題解決の具体的なイメージを持たせることで、勉強の意味を理解させることに役 立っている。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か	
		共通到達目標のもと、具体的な授業内容については各担当者の裁量に任せているが、今後はこれまで以上に担当者間 の連携を緊密にし、一部共通テーマを盛り込むことなども視野に入れて、授業内容をさらに充実・発展させていきたい。	☆
		その他	
			☆
備考			☆